

茨木高校野球部

OB会報

発行

大阪府立茨木高校

野球部OB会

茨高野球部生活を通じて
学んだ大切なこと

高校36回 主将 水上 幸治



こちらは上半身裸になって声援を送つてくれた同級生の姿も。翌朝の新聞スポーツ欄の見出しには、「熱闘17回茨木力尽きる」の内容でした。ちなみに、この年の甲子園を湧かせたのは、当時1年生だった桑田 清原を擁するPL学園。大阪代表として全国制覇し世を風靡しました。

4月14日以降に発生した熊本、大分での地震により被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。私事にわたって恐縮ですが、熊本県益城町の隣町にある叔父の実家が2回目の地震で全壊の被害に見舞われました。幸いにも親族一同無事であり、復興再建に向けて歩みだしております。さて今回、OB諸先輩方に続き、私が会報の紙幅を割き現役世代の皆さんにメッセージを贈らせていただけること、大変光栄に思い、感謝申し上げます。私の伝えたいことは、すばり、「高校3年間の野球部生活がいかにその後

の人生の支えとなったか」ということです。先輩方には誠に恐縮ですが、主に若い世代の後輩達へのエールとしてお聞き流してください。私は高校36回卒業の世代。高校3年の夏最後の試合となった府立堺工業との戦いは、延長17回まで熾烈な戦いとなり、日生球場のカケル光線を浴びながらのナイター点灯試合でした。スタンドには多くの応援団が駆けつけていて、開始から5時間を越える

言い方をするとお客様の心を「半落ち」させられたも同然。5点リードの6回から試合が始まるようなものです。きどこれから就職活動される若い世代の方には、どうかこの貴重で有り難いアドバンテージをフルに活かして希望を叶えて頂きたいと思います。それから、先ほど登場した縦の糸ならぬ、伝統の重みについても触れたいと思います。幸運にして茨木高校には、旧制中時代から続く野球部の伝統があり、その誇れる財産は、3年間の苦楽を共にした人しか与えられません。しかしOBとなつてから直ぐにそのありがたさに気が付いたわけではありません。卒業後は、学生・社会人として自分のことで精一杯という状態。仕事も家庭も落ち着いてきた2000年になった頃、故小野俊博先輩からの執拗なお誘いを頂いたこともあり、OB会行事に参加するようになりまして。実際に行ってみると6歳上の尾崎さん、和田さん世代ですらまだ若者扱いの雰囲気。同じ会社なら社長よりも年上、各上といった先輩方が多数参加され、また皆、大声で飲みながら叫んでいる。上には上が居ることを30代半ばで、思い知らされました。と同時に、自分のためだけでなく「人」のために働くことの尊さを小野さんから学びました。

また「昨年、TVドラマで「弱くても勝てます」という開成高校野球部をモデルにした番組がありました。屈指の進学校の野球部が、独自の理論で強豪校に挑んでいく、吉岡監督時代に、大阪桐蔭高校に勝利できたことと同じようなストーリーで全て観てしまいました。強い相手には怯えたら負け。我々の得意を伸ばし、堂々と戦えば、勝利する可能性も見えてくる。今でも私の仕事においてこの教訓、勇気は活かされています。現役の諸君。想い出は後から都合の良いように変えられません。大切なのは、今日全力を尽くすこと。OBの与太話は、卒業してから沢山聞かせてあげますので、それまでは我々OB総員の夢である「茨木高校野球部、甲子園初出場！」を是非実現してください。

御挨拶

高21回 池永 徹

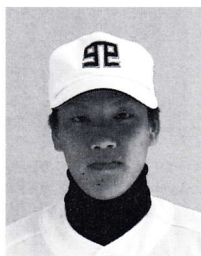


文末になりましたが、選手、OBの皆様、ご家族の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

陽春の候、OBの皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。私は任期の満了により2016年3月末で再任用教諭としての勤務を終了しました。4月からは非常勤講師として週に2時間だけ茨木高校で授業を担当しながら、ほぼ毎日大阪府高野連事務所に行つて仕事をしています。教諭としての勤務は終わりましたが、週2回は茨木高校に出入りしていますので、何かお役に立つことがあれば和田監督の手助けをしたいと思います。また、OB会事務局の一員として茨木高校野球部のお世話を続けていただきますので、よろしくお願いいたします。

御挨拶

顧問 石丸 寛明



新緑の候、OBの皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、この度国語科の新任教員として茨木高校に配属となり、野球部の顧問となりました石丸と申します。私自身、小学校から大学まで野球をさせていただきましたが、教員1年目から高校野球に携わることができるとは思いませんでしたので、大変喜ばしく感じております。また、茨木高校という伝統ある学校において教壇に立ち、子どもたちの成長に関わることができるといふことに、大きな喜びと責任を感じている次第でございます。

高校野球は、子どもたちの人格形成において大きな役割を担っているとは私は考えています。挨拶などの礼儀を学び、チームメイトと信頼関係を築く。チームにおける自らの役割を考え、自分には何が足りないのか省察する。上手くなるため試行錯誤し、壁にぶつかって悩む。苦しむ。これらを経験し、それでもなお努力を続けることで成長できる、それを教えてくれるのが高校野球だと思います。「勝利至上主義」という考え方もありますが、こうした経験の先にある勝利だからこそ価値あるものになるのだと考えています。部員たちが高校野球を通して成長できるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

監督より

高30回 和田 充司



OBの皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。いつも野球部に